

# きんたろう倶楽部通信

8号

2006年4月23日  
きんたろう倶楽部結成  
2009年8月の会員数:784名

人びとが暮らすために必要な森づくり。子どもたちがのびのび育つために必要な森づくり。  
それにはあなたの力が必要です。自然の恵み豊かな富山の里山を、いっしょに創りませんか。

2010年3月15日発行  
きんたろう倶楽部事務局  
〒930-0151 富山市古沢254番地  
富山市ファミリーパーク内  
TEL&FAX: 076-434-1316  
URL: <http://kintaroclub.net>  
E-mail: [info@kintaroclub.net](mailto:info@kintaroclub.net)

## 第二回 森林と人 シンポジウム

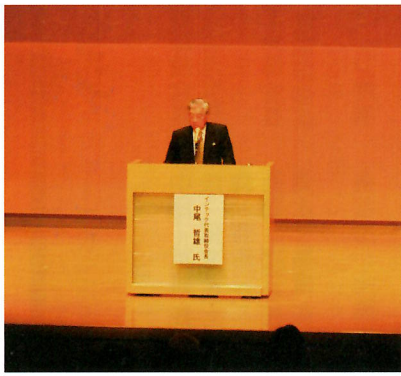
### 「はじめの一步」をはじめよう

子どもたちの発表はとても素晴らしく涙ぐんでしまった。学ぶべきは大人の方だと思い、自分たちがこれまでやってきた事の「責任」を感じ「悪かった」という思いをした。子どもたちは、本当に真剣に未来のことを考えており、素晴らしい活動もなされていることを知りました。

私は、森の中で育ったので、森での体験話をさせて頂きます。

#### 里山の生活

私の家は、田んぼはそれ程ないが、山があり、おじいちゃんから「お前が一日歩いて山の世界から境界へいけないよ」と言われたもので、子どもの頃は家族総出で山の手入れをし、杉の下枝は大人が下ろし、子どもが葉っぱを拾う。こうした枝や葉を風呂を沸かすのに使ったものです。こうした作業は家族総出で行い、家を建てたこともあったのですが、持家率は100%でした。



た。子どもの頃、木材工場が村々にあり伐った木を製材し住宅用にし、それが村の生活を支え、また植樹を繰り返しました。今でも同窓会で集まっても誰も花粉症がない。杉の中で遊んでいたからでしょうね。

富山大学に入ると、炭の値段がめっちゃめちゃ高い。炭は自宅の裏山で焼いており、自分も時々手伝っていた。それを売ったら1年分くらいの学費は出た。しかし翌年山の炭は、街の炭と違って煙が出

#### 基調講演

### 「未来を担う子供たちへのメッセージ」 「自然の大切さをどう伝えるか」

(株)インテック 代表取締役会長

中尾 哲雄



日の私はないのではないかと思えます。

大山町のなかに廃村の山がいくつかあって足立原(貫)先生が、そこで哲学の講義をしたり、昼は農作業をし、「人と土の大学」というのをやっていた。その活動の中から、この地に「哲学をベースにした大学を作ろう」という事で、富山国際大を作り、またインテックの研修所や職芸学院、北陸電力の研修所もできた。森は大事だが人間がいなくなったら森は大変だからです。その時除草剤はヘリで散布しており森の下草はいいかもしれないが、トンボもチョウウチョも死んだ。足立原先生は反対運動

#### 森へ恩返し

45年ほど前、フィリピンのミンダナオ島へラワン材を買う仕事で行きました。百年育てたラワン材は、植樹の効かない木ですが、みんな日本へ伐って持って行く。その事に罪悪感を感じ、本当にこれでもいいのかと思いはじめ、伐った

として「草刈り十字軍」を始めそれがまだ続いています。東京などから、たくさんの方が富山に草刈りに来るその活動により、除草剤の散布はなくなりました。その時から森を守る活動は始まったのだと思います。

#### 唱歌とふるさと

「夕焼け小焼け」「春の小川」、ウサギ追いかの山の「ふるさと」といった唱歌の歌詞が、高野辰之という人によって作詞されていることを知り長野県飯山市へ行ってみると、なぜ素晴らしい歌が作られるかわかりました。そこは千曲川に野沢菜の花が咲き、日本のふるさとの原形のような場所に残された自然は素晴らしく観光資源にもなっていて、特にブナ林の山に60キロもの遊歩道を作っており、私も資金集めに協力し、自分も歩いた感想はなだらかで、とても癒される道でした。IT産業の中で働いているが、気付いたらこんなにも森と関わってきたし、関わらざるを得なかったのかと気づかされる。高校に通学する時に遠回りだけ雑木林を通り、その雑木はみんな覚えてしまった。季節が変わると、枯れた木から新芽が出、また秋になると落ちていく。自然の営みは、我々の情操教育に、極めて大切なことだと思ふ。

富山市ファミリーパーク園内に建てた「いのちの塔」そこに子どもたちが集まり、いのちの大切さを考えてもらうきっかけになればと思います。森を大切にすることは市民全体の問題であり、きんたろう倶楽部だけに任せてはおかず、私個人でも企業としても、これからも色々取り組んでいきたいと思ふます。



# 森についての学習発表会 「森と人と川と」

富山市立岩瀬小学校5年松組

岩瀬小学校5年松組の21人は「森と人と川と」というテーマでプロジェクターを使い全員がそれぞれ発表する、とても楽しく、かつ有意義な発表会で、会場の大人たちもみな関心していました。



岩瀬浜で漂着物調査をしたり、そこで見つけた流木のふるさとを求めて、岐阜県高山市の位山にも行きました。そして、森と川と人は、とても深くつながっていることがわかりました。

9月8日、私たちの住んでいるすぐ近くの岩瀬浜に、漂着物調査にでかけました。調査の前に、どのようなものが落ちてくるか予想しました。プラスチック類、花火タバコ、ライター、ビニール袋、ペットボトル、布類、流木があると予想しました。

私たちが、岩瀬小学校の5年生は、総合的な学習の時間に、「環境を守ろう」というテーマで、森や川のはたらきについて学習してきました。

実際にあったものはプラスチック類、ひも、たばこのフィルター、ビニール袋、発泡スチロール、ほかに、金属やゴムなどいろいろあり、特に多かったのはプラスチック類です。このプラスチックのかけらは、もとはどんなものだろうか？ どうしてこんなに小さくなったのだろうか？ という疑問がわき、タバコの吸い殻が思ったより多くて悲しい気持ちになりました。調査したのは、ほんの10メートル四方という限られた場所ですが、岩瀬浜がこんなに汚れているとは思っていません。もっと興味を持ち自分たちができることに積極的に取り組みたいです。

神通川上流の、岐阜県高山市立宮小学校の5年生と、下流の岩瀬小学校は川つながりで15年間交流しています。そこで高山市まで「神通川の始まり」を見に行きました。神通川は、岐阜県側では「宮川」と呼ばれています。宮川の生まれた「位山」、足元からじわじわとわき出る水が、「川の始まり」。



たが、ひとつだけ自然のものがありません。それは流木です。大きな流木が、山から海へ流れてくるのが不思議でした。

もお世話になってるんだね。ところが世界では、1分間に東京ドーム3個分もの森林が消えているといわれています。日本では、林業を営む人の数が減り、森林が荒れてきています。このままだと地面に日が当たらずに、植物が育たなくなると、森が消えてしまいかも！

この苗木が大きくなって、林になり、やがて森になるのかなと思うと、これで少しは日本の環境が守れていることをしたなと思います。林業の手伝いは、今は無理だけど、自分たちができることは何かあるだろう。

僕たちは宮小学校に行った時、林業のベテラン「山腰さん」にお話を聞かせてもらいました。昔の知恵は素晴らしい、昔の人が残してくれた森を大切に守りたい、という気持ちがわいてきました。そこで私たちは、森を守る方法を3つ考えました。その1. 木から作られたものを大切にしよう。その2. 木を植える。その3. 林業の手伝いをする。



突然ですが、臨時ニュースです。2059年11月23日。二酸化炭素がまた10%減ったことが分かりました。これは世界中の人たちが、環境を大切にする生活をこころがけた結果です。みなさん、これからは地球に優しい生活を心がけましょう。

森も 川も 人も いつまでも元気でいられるよう、みんなで考えて実行していきたいです。

## 「森づくり」活動報告

かけがえのない地球を次世代へ  
「我々が守ろう美しい環境」

（株）日立国際電気  
富山工場 総務部 横川寿志

日立国際電気グループでは、2009年度環境行動計画により、環境に関する社会貢献活動に取り組むことを通じ、社員及びステークホルダーの環境保全意識の向上を掲げて、「地球市民活動」として環境貢献活動に取り組んでいます。

富山市が進める「企業の森づくり」促進事業に調印し、2009年度より八尾中核工業団地内地の森林2ヘクタール内で「遊歩道」の整備など日立国際電気グループ3社にて里山再生活動を実施しています。

近年人里近くに熊の出没による人身被害や、害虫による集団枯損

が多く発生していますが、「とやまの森づくりサポートセンター」に企業登録し、ご指導頂きながら豊かな森への再生を目指しています。今後も、県農林振興センター、とやまの森づくりサポートセンター、そして「きんたろう倶楽部」のサポートを頂きながら「官・民・企業一体」となり「私たちの暮らしに欠くことが出来ない富山の森」を守り育てていきたいと思っております。今後ともよろしくお願致します。

## 特色ある企業の「森づくり」を目指して

（株）国際電気セミコンダクター  
サービス

富山事業所 管理部 水野 信孝

2006年から始まった企業の森づくり活動も、今年度より日立国際電気も加わり、「日立国際電気の森」としてあらたにスタート致しました。今年度は、キットオフから全6回の活動が行われ、グ



ループ全体で延べ237名の参加があり、遊歩道も全行程の1/5が整備されました。また、今年度の活動の締め括りとして、きんたろう倶楽部様のご支援を頂き、緑

秋には、栗やきのこが収穫できる「収穫の森」、日頃の運動不足の解消や気軽に散歩でき、消費カロリーのMET表示される「健康の森」、フィットネッチッドがある「癒し森」など、従業員と家族が元気になる親しみやすい森づくりを目指していきます。まずは遊歩道の貫通を第一の目標にして頑張りますので、今後ともご支援の程、よろしくお願致します。

の1環として行いました。このキャンパス内の森林整備活動は5年計画で行うもので、9月に行った整備はその2期目にあたりです。



「知らせよう！きんたろう倶楽部の活動」  
富山国際大学環境サークル  
第3期部長 佐藤 貴之

●森林整備をしていると、林の中からは空き缶やペットボトルはもろろのこと、バッテリーや廃タイヤなどの不法投棄物が数多く出てきました。森林内に限った事ではありませんが、このまま放置す



森がないと、  
はくたち困ります。

私たちは  
森づくりを応援します。

自分のモノサシをつくろう。

北日本新聞

地球環境貢献活動を応援する

三井物産環境基金

美しい富山の自然を大切にしたい  
高陽オフィスプランニング(株)

〒939-8064 富山市赤田494-1 TEL: 076-422-0310

デジタル印刷&マルチメディア  
とうざわ印刷工芸(株)

本社 〒930-0008 富山市神通本町1丁目8-13 TEL(076)432-3267(代)

るとゴミ捨て場になってしまおうので、やはりこの活動は持続していかなければならないということに改めて実感し、また、人々の自然環境に対する関心の低さも目の当たりにしました。

●近年、様々なメディアなどで「環境活動」について多く取り上げられていますが、きんたろう倶楽部の新聞記事が以前に比べると少なくなつたように思います。

身近な場所でも、意義ある活動だと思えますので、もっと多くの人に知ってもらえるよう、活動の柱にもある「情報づくり」や「組織づくり」からこの団体の活動を発信し、市民に環境への関心を高めてもらいたいものです。



## どんぐりのしゅんじゅ

東山保育所

いなさき ゆうすけ

ぼくは、ころりんのもりにごんぐりをうえにいきました。きんた

ろくつらぶのひとうえかたをおしてもらいました。むずかしうだったけど、おかあさんとおねえちゃんといっしょにしたら、たくさんつえられました。たのしかったです。

## どんぐりのしゅんじゅ

東山保育所  
あべ しおり

ばすにのつてどんぐりをうえにいきました。さいしよに、すこぶであなをほりました。つちがたかかったから、おとうさんにほつてもらいました。おおきくなるようにひりょうをいれました。そこにどんぐりのきをうえて、みずをあげました。おおきくなるようにおねがいました。やまにきをいっばいうえたら、うれしいきもちになりました。きがおおきくなつたら、みにいきたいです。



## 天湖森里山整備 ボランティア

富山市立楡原中学校  
山下景行

僕は天湖森ボランティアに参加して自然とふれあい、新しい発見をすることができました。僕は草むしりの担当で最初は大変で疲れると思っていました。ところが、実際にしてみると、いろいろな種類の草木や、きれいな花もみることができて、とても楽しかったです。

草むしりの作業が終わった後に、ネイチャーゲームというものを行いました。まずは、一つ一つ違った種類の葉を集めるゲームは今まで行った事なかったゲームで、とてもおもしろかったです。次に、目を閉じ耳を澄まして、自然の音を感じとるゲームを行いました。普段はなかなか気が付かない音も、目を閉じ耳を澄ますことで、鳥の音や風の音など、いろいろな音を感じとることができました。

僕はこの天湖森ボランティアを通して、自然のことをたくさん知ることができました。これからの日常生活の中で、目を閉じ耳を澄まして、自然の音をまた聞いていきたいと思いました。

## 富山市立楡原中学校 坂井勝己

僕は天湖森ボランティアで、草や木の枝を伐採して道を作っていく作業の班になりました。まず最初に、道を作る現場に行きました。

草や木がたくさん生えたパークゴルフ場の近くの木と木の間にはロープが張ってあり、それに沿って周りの草や木を伐採していきました。伐採に使う道具を最初はいきましく使えませんでした。使っていくうちに、少しずつ慣れていきました。

同じ作業を行うもう一つの班が、向かい側から伐採していき、途中で2つの班が合流すると聞き、私も。僕たちは、木がなかなか切れず大変でしたが、少しずつ前へ進んでいきました。伐採していくうちに、もう一つの班の音が聞こえてきたので、もう少しだと思い頑張りました。そして、ついに2つの班が合流しました。その時、頑張った作った道がやっとつながったのだと思いました。

最後に僕たちが作った道を通ってみると、とてもきれいにできていたので、うれしかったです。僕はこの天湖森ボランティアを通して、あきらめないことの大切さを学ぶことができました。



## 編集後記

11月7日(土)に無事開所式を終えた「きんたろうの森」、これは6月末に整備をした竹チップを堆肥化させる実証実験用の竹林整備跡地です。開けた竹の林床を見るとどうやら以前は茶畑として使われていた段々畑の様子。以前に、しばらく上へ向かって登ってみると東側斜面から立山連峰が望める小高い丘に辿り着きました！これこそ点と点を繋いで立山連峰を望める展望広場となるよう整備し、生態系豊かなな里山として活用すれば人々が集う空間になるのでは？と森づくり作業部会に提案し賛同を得ることができました。22年度から少しずつ森として整備するとともに持続可能な環境教育の場として発展できたら！と夢は広がるばかりです。といっても一人は勿論、少人数でもスムーズにはやりません。そんな夢をたくさん持ち寄って将来の子どもたちも楽しく集えるきんたろうの森を創り出しませんか！  
(事務局 松田 記)

## 今後の活動予定

- 4月17日(土) 稲代 国有林内竹林整備
- 4月24日(土) 第10回呉羽丘陵竹林整備
- 4月25日(日) 森づくりボランティア交流会
- 5月16日(日) めひの野園竹林整備
- 5月28日(金) 第11回とやま森の祭典 など